

でんでら通信 第百八号 令和五年四月

花まつり

四月八日はお釈迦様のお生まれになった日です。今年も門前に花御堂を祀り甘茶供養をいたしますので、みなさまどうぞご参詣ください。

坐禅会

四月三十日(日)十時に坐禅会を開催します。みなさんのご参加をお待ちしております。

人生を終える日に

仕事柄、いやお勤め上、いろいろな方のお亡くなりになる場に立ち会ってきました。家族に見守られて穏やかに亡くなられている方、不慮の事故に遺された家族知人の嗚咽の中に見送られる方、身内のおられない施設の方に送られる方、いろいろな方がみえます。

ただそれぞれの方に共通していえるのは、どんな方でも、亡くなるときは身体一つで棺に入って火葬されてお骨となり、この世を去るという現実です。

故人は、生前中どんな人だったか、どのような生い立ちを過ごされてきたか、遺された方々とのような関わりを持ってこられたか、禅宗ではこれらを遺族関係者にお聞きして、引導という漢詩の形にして葬儀に読み上げます。そのような時、故人の生い立ちや人柄について、そんな方だったのか、と初め

て知る遺族関係者もおられます。

故人の人生はどうだったのか。満足して亡くなられたのだろうか。

故人の遺体を前にして、遺された方たち同士で話されることがあります。

- ・好きなことを十分してきたからよかったですね。
- ・子供や孫に出会えて幸せだっただろうな。
- ・長い闘病生活、お疲れさまでした。
- ・商売ではうまくいかなかったけれど、やれることはやった。

いろいろです。しかし、亡くなった方の本心はわかりません。もしかしたら、誰にも話していない願望があつて人生にやり残したことがあつたかもしれません。人の死に目で自分の人生を考える。

人生を終える日

どんな気持ちになつていたら最高ですか？

ほんとにやりたいことをやる人生と、ほんとにやりたくないことをやる人生。あなたはどちらを選びますか。誰しも、本当にやりたいことをやる人生を選ぶこととでしょう。

こんなアンケート結果があります。

アメリカで九十才以上のご老人に聞いたものです。「九十年の人生を振り返って唯一後悔していることは何ですか」

この問いに対して、なんと90%の方が同じ答えをされています。

「もつと冒険をしておけばよかった」

長寿の方たちですので、それなりに身体を気遣い過ごされてきたのかもしれませんが。安全安心な人生

を歩まれたのかもしれませんが。ただ人生を長く過ごされてきただけに、人の亡くなる場面は数多く見てこられたこととでしょう。亡くなるのはいつも他人。自分もいつかは亡くなるだろうが、まだ先。そんな風に思つてきていたかもしれません。私たちもそう思つているところがあります。

しかし人は生まれた時から、100%死に至る可能性を持つて生きています。早いか遅いかの違いです。

「あなたはいま生きています。それ以上の奇跡などありません。いつか死ぬ身であることを心に深く刻めば、今日という一日が、いかに可能性にあふれ、うれしく、ありがたく、いつにもまして輝きはじめることに気づくこととでしょう」

禅修行において悟りを得た瞬間について、「周りすべてのが、輝いてみえる。」といいます。それは日常見慣れた風景でありながら、受け取る自分の感じ方が今までは、全く変わる事によって、思わぬ生きていることに感謝せずにはおれないという心情の変化をいうのでしよう。

あなたが生まれたとき

あなたは泣いていて周りの人たちは笑つていたでしょう。

だから、いつかあなたが死ぬとき

あなたが笑つていて周りの人たちが泣いている。

そんな人生を送りなさい。

ネイティブアメリカンの言葉

参考…あした死ぬかもよ？ 人生最後の日に笑つて死ぬる27の質問 ひすいこたろう著